

23/7/22 第2回城郭市民セミナー「名古屋石垣の文献調査と展望」
名古屋市民オンブズマンによるメモ

13:30

司会：始める

堀内亮介氏：名古屋城調査研究センターは
名古屋城総合事務所の中にある調査研究部署
学芸員17人 大量だが考古学が多い 発掘を行っている。
私は歴史学で文献調査専門
文献から見た石垣。
江戸時代全体は大変なので築城のときだけ説明する。

名古屋城の歴史

今の名古屋城 本丸御殿
昭和20年 江戸時代のものが残っていた
再建コンクリート天守
本丸御殿 2018年再現 寛永時代のもの
1610年 豊臣秀頼まだいた
西国20国 公儀普請

1615年 建物がたち終わる 徳川義直が入城

青色5メートル以下
高めの台地 熱田台地 北西隅 水害に強い
熱田港町として機能
計画的な都市 今も碁盤割
名古屋駅 城下のはずれ
昭和初期の名古屋城と本丸御殿
床面積 江戸城、大坂城に次ぐ 燃えた
最大規模の天守
姫路城、名古屋城 残して 国宝にも指定
現在博物館
石垣高さ20メートル
下から上まで56メートル 最大
現在閉館 木造復元しよう
調査研究センター あわせて調査している

金のしゃちほこ

1607 忠吉死亡 義直が尾張国を与えられる

1609 清須から名古屋に移す

山下氏勝

公儀普請 丹波篠山城、名古屋城、亀山城

20 大名が公儀普請

加藤清正 熊本城

池田輝政 西国大名のとりまとめ

のべ 20 万人の職人を動員

半年間でほとんどの石垣が完成した

三之丸は近くの名を呼んで作った

九州 島津だけ動員されていない

四国 県庁所在地市大名動員

海沿いの大名が動員

関ヶ原後 自分の拠点を改修

石垣技術が盛んになった

牧助右衛門が縄張を実施

閏 2 月 8 日 西国大名が名古屋に出発

わずか 9 日で本丸石垣が「完成」？

6 月 20 日 本丸の石垣が積みあがっていた？

諸大名家の築城期資料

20 家のうち、幕末まで残ったのは 11 家

細川家、山内家、毛利家

浅野、池田、鍋島、島津（不参加）も

慶長 13 年 名古屋に城の取り換えをするという噂

慶長 14 年 山内家が家臣を尾張に派遣

慶長 14 年 12 月 - 慶長 15 年 2 月 北国・九州 普請内命

中国・四国は丹波篠山城普請のため名古屋城免除

慶長 15 年 1 月 5 日 島津書状 名古屋に行くと思っていた

その後、琉球の王様を江戸に連れていくので免除

普請組合 稲葉・木下・毛利と同じ組に

中国・四国大名も名古屋普請命令

浅野・池田 内々に情報を得ていた

山内 突如命令 急いで家臣団を編成

2 月 11 日書状 去年丹波篠山城に動員 今年の普請は免除する方針

忠義 我々も動員してほしいと正信に伝える

参加していない大名も紛れ込んでいる

神保 名古屋から丹波亀山城に変更

1万石より下 舟を用意できないから

名古屋城 平地が多くて 石垣が用意できない

熱田の港から持ってくるしかない

山内忠義 駿府の家康に会いに行こう 草津に立ち寄る

夜中であろうとも急いで普請衆を名古屋に送って

いそぎいそぎ

閏2月10日 細川忠興書状

美濃・津屋という石切り場にいる

丹波篠山城 残らず名古屋城普請命じられた

中国・四国大名は負担軽減

石材調達方法

義演日記 熱田が混雑 舟がなく渡れず

琉球王を連れて名古屋を通過

美濃・三河から石材を調達

商人たちが栗石を高値で売りに来ていた

福島正則 金持ち 商人から石を買った 貯金がなくなった

細川家 石切り場 美濃 津屋・駒野・河戸

尾張 瀬戸・山口

他家が来る前に石材確保

山内家 土佐から石舟で石材を運んだ

小間目から運ぶ 頭集（かしらつどい）

毛利家 駿府の三浦元澄に石切り場の手配を命じる

三河・幡豆 石切り場に奉行がいた

美濃 船来山 前田家の刻印

尾張 岩崎山（小牧市） 尾張藩の石切り場

三河 幡豆郡 篠島 加藤清正が使っていた

土佐、紀州

丁場割 史料22

変更があったのでは

史料24 4月28日

6月3日 変更された

3月22日 中国・四国・紀の国は負担軽減

本丸は参加しない

二の丸はみんな分担任

天守台石垣 加藤清正の家臣の刻銘

どこの石垣を積んだかわかる

本丸搦手馬出 東側にある

加藤清正の名が天守台石垣の記されていない

二の丸のみとされていた中国・四国大名も本丸丁場を割り当てられている

九州・北国 負担 石高の3割増し

4月18日以降に丁場割が変更になった

6月3日直前まで丁場が決まっていなかった

慶長15年6月17日 細川忠利書状

天端で5, 6寸ずれており、積みなおし

福島、蜂須賀、山内、生駒、鍋島、毛利

田中・黒田は遅れていたため積みなおしせず

池田 作業していない

寺沢・浅野 早々に完成

細川家 多く積みなおすことに

相談し合って相談

本丸西面石垣 3人で分担した丁場

池田、鍋島、山内

普請完了

6月20日 慰勞する黒印状

6月24日・7月7日 扶持米

7月24日 寺沢丁場の過半が完成

9月9日 諸大名が順次帰国

池田輝政は前日に帰国

9月晦日 普請完了慰勞黒印状

細川忠利 10月11日 普請は4, 5日で終わる

鍋島勝茂 9月中には石垣完成

9月27, 28日には帰国する

毛利秀就 9月4日 石垣出来、堀は6日に出来

9月25日 石垣・堀・地形

大石1000個、さや石203個、栗石20坪進上

山内 9月15日

天守台石垣 あとあと修理

北面石垣 宝暦時代 尾張藩が修理

図面が残っている 三角形以外は積みなおし
積みなおしたものは切り込みはぎ
時代によって違う
どういう苦勞で石垣を積み上げたか
丁場割図 対比してわかる
今後も研究の余地がある

15:09

会場質問：加藤清正が前田家に依頼？

細川

堀内：加藤清正が天守台石垣を積んだ

前田家残った 自分の普請が終わっていなかった

四方積む 普請変更は難しい

清正 計画の変更がおそらくあった

清正が全部積み上げてから帰った

前田家 天守台石垣を改変したというのは資料として出てこない

細川家手打ち 忠興 病気で帰国

お父さんに伝えるな

お父さんが派遣した家臣を切った

小倉に帰りずらいから中津に帰りたい

忠利自体は、普請場を任された

忠興 大名の交流書状

忠利は書状が残っている

司会：これで終わる

15:15